

地震被害想定・ 津波シミュレーション調査 全体概要

令和8年8月20日（木）

地震被害想定・津波シミュレーション調査は令和6年11月から着手しており、長期間にわたって実施しています。

調査への社会的関心も高いことから、次の理由により、進捗状況の整理を行うものです。

- 1 令和8年1月14日開催の令和7年度富山県防災会議地震対策部会での中間報告の公表から約半年が経ち、この調査について、市町村をはじめ防災関係機関、地域の防災リーダーの方々の関心も高いこと
- 2 本県で起こりうる地震や津波による災害が想定外のものとならないように調査を進めるにあたっての現状の課題や、その課題への対応方針を明らかにすること

1 業務内容

(1) 地震（調査対象断層：12ケース（連動パターン3含む））

① 断層モデル（長さ・深さ・傾斜角等）の設定

② 地震動の計算

最大震度分布の作成

土砂災害・液状化の推計

下線部について、令和7年度地震対策部会
(R8.1.14開催)で中間報告として公表済

③ 被害想定 of 計算

【被害想定項目】

- ・建物被害 ・物的被害 ・人的被害 ・ライフライン被害 ・交通施設被害
- ・生活への影響 ・災害廃棄物 ・被害額 等43項目

【想定シーン】

- ・冬深夜 ・夏12時 ・冬18時 ・お盆3時（※特異日）

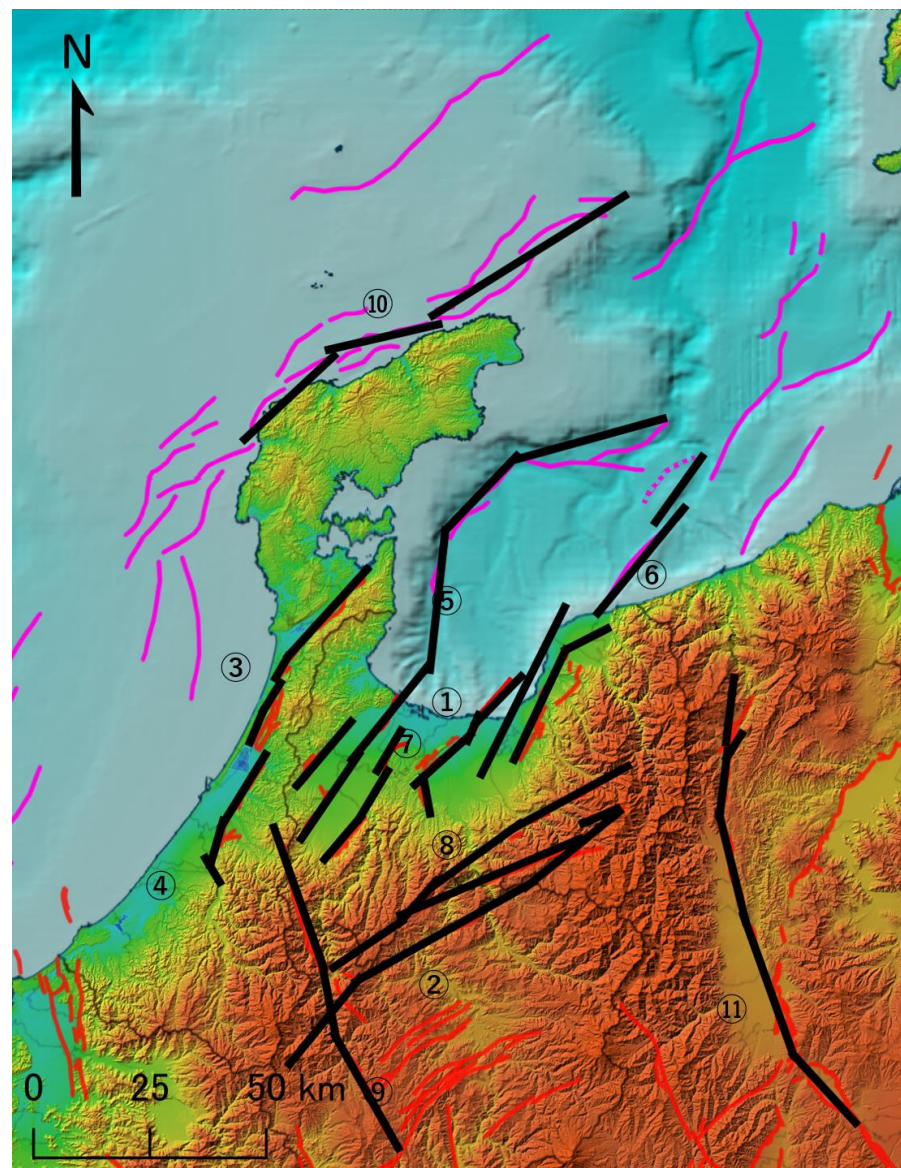
④ 減災推計

- ・耐震化率
- ・感震ブレーカー設置率
- ・家具転倒防止実施率

(2) 調査対象断層 (地震)

番号	調査対象断層 (帯) 名
①	呉羽山断層帯
②	跡津川断層帯
③	邑知潟断層帯
④	森本・富樫断層帯
⑤	七尾湾東方断層帯＋飯田海脚南縁断層 ＋高岡断層＋砺波平野断層帯西部
⑥	魚津沖の断層＋魚津断層帯 ＋上越沖断層帯（親不知沖区間） ＋糸魚川沖の断層
⑦	砺波平野断層帯東部＋射水断層
⑧	牛首断層帯＋早乙女岳断層
⑨	庄川断層帯
⑩	能登半島地震の震源断層
⑪	糸魚川－静岡構造線断層帯
⑫	南海トラフ地震

⑫ 南海トラフ地震



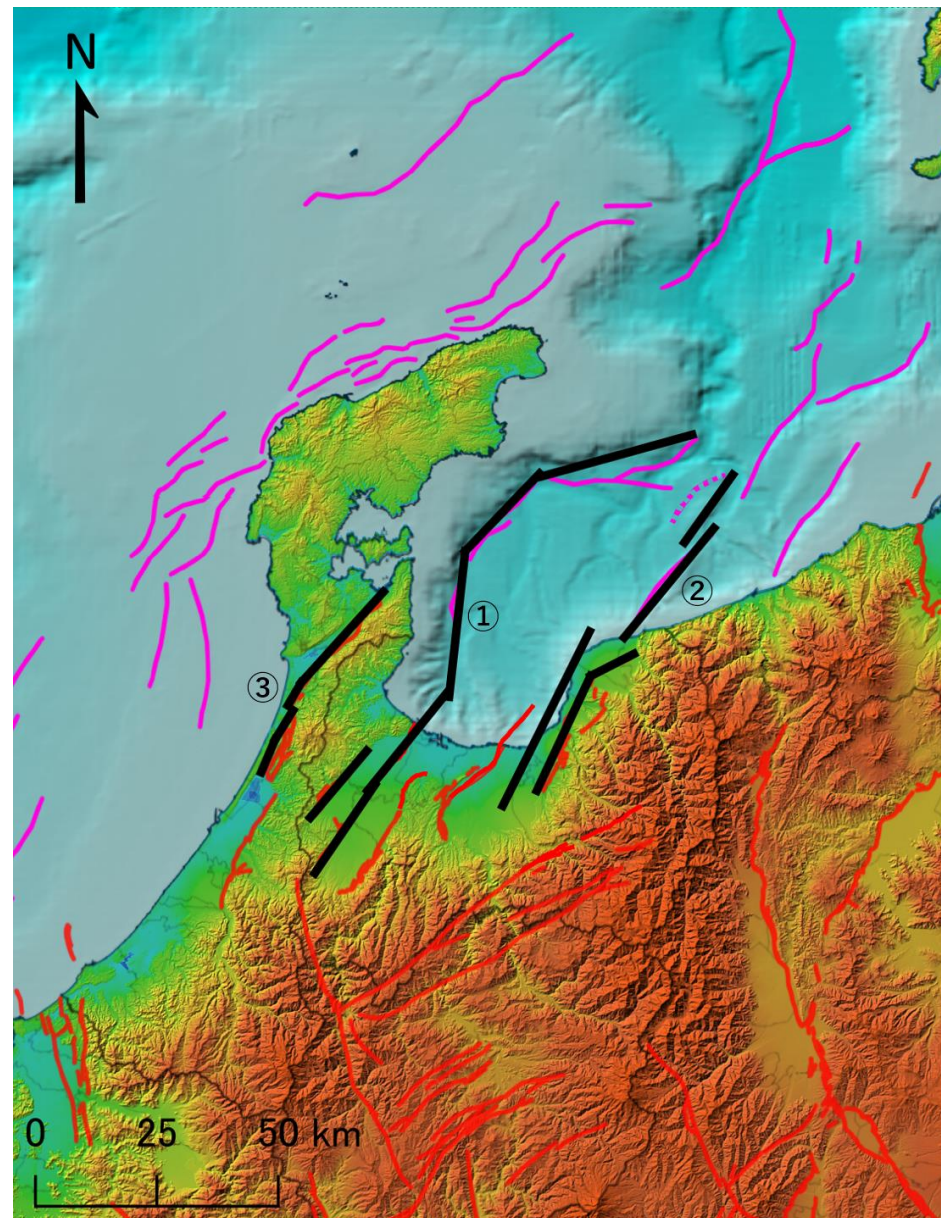
(3) 津波（調査対象断層：3ケース）

- ① 断層モデルの設定（津波の破壊力が最大となるよう断層のすべり量を設定）
- ② 津波予測の計算
海面水位、河川の遡上、
地形や構造物の条件設定
津波高、津波到達時間、
浸水面積等のシミュレーション
- ③ 被害想定 of 計算
人的・建物被害の推計
- ④ 減災推計
津波の避難意識
⇒R6富山県_能登半島地震に
係る県民アンケート調査による

設定の考え方	避難行動別の比率		
	避難する		切迫避難あるいは避難しない
	すぐに避難する (直後避難)	避難するがすぐには避難しない (用事後避難)	
避難開始時間 (昼間)	地震後5分	地震後15分	津波到達後避難開始
R6富山県アンケート	約24%	約49%	約27%

(4) 調査対象断層 (津波)

番号	調査対象断層 (帯) 名
①	七尾湾東方断層帯＋飯田海脚南縁断層 ＋高岡断層＋砺波平野断層帯西部
②	魚津沖の断層＋魚津断層帯＋上越沖断 層帯(親不知沖区間)＋糸魚川沖の断層
③	邑知潟断層帯



2 地震・津波調査検討ワーキンググループ（WG）

月に1回程度の全体会(対面)で議論中 （テーマごとに個別議論も実施）

氏名	所属・役職名
川崎 一郎	京都大学名誉教授（座長）
竹内 章	富山大学名誉教授
古谷 元	富山県立大学工学部教授
宮島 昌克	金沢大学名誉教授
安江 健一	富山大学都市デザイン学部准教授
呉 修一	富山県立大学工学部教授
菅原 大助	東北大学災害科学国際研究所准教授

（地震・津波 五十音順）

- R6. 11. 15 調査開始
- ・第1回 R6. 11. 28 ハザードの想定
- ・第2回 R7. 1. 31 断層モデルの設定
- ・第3回 R7. 2. 19 断層モデルの設定
- ・第4回 R7. 3. 28 断層モデルの設定
- ・第5回 R7. 4. 21 データ収集の進捗確認
- ・第6回 R7. 5. 16 断層モデルの設定
- ・第7回 R7. 7. 2 予備知識の整理、データ収集の進捗確認
- ・第8回 R7. 7. 10 断層パラメータの設定、地震動の試算
- ・第9回 R7. 8. 28 断層パラメータの設定、地震動の試算
- ・第10回 R7. 9. 25 断層パラメータの設定、地震動の試算
- ・第11回 R7. 11. 19 地震対策部会での公表方針、地震動の試算結果
- ・第12回 R7. 11. 28 津波浸水想定の手法確認
- R8. 1. 14 令和7年度地震対策部会の実施**
- ・第13回 R8. 2. 9 津波断層モデルの設定、土砂災害・液状化推計手法
- ・第14回 R8. 3. 27 津波大滑り域の設定、南海トラフ、能登半島地震の地震動
- ・第15回 R8. 4. 28 津波計算条件の設定（仮試算）、南海トラフ、建物被害
- ・第16回 R8. 6. 18 土砂災害・液状化推計手法、建物被害の計算手法
- ・第17回 R8. 8. 4 連動パターンの検討
- ・第18回 R8. 8. 6 土砂災害・液状化推計手法、建物被害の計算

3 今後のスケジュールの検討について

【論点】現状の作業進捗状況を踏まえた、スケジュールの見直し

※（参考）中間報告（R8.1.14）時点での今後のスケジュール

時期	内容
令和8年1月14日	地震対策部会の開催（震度分布の報告）
令和8年1月～7月	・地震による被害想定計算（想定項目43） ・津波計算（シミュレーション） ・津波による被害想定計算 ・減災推計 ・啓発資料の作成
令和8年8月～秋頃	・各関係機関との協議
令和8年秋頃（最短）（各関係機関と調整後）	地震対策部会の開催（調査結果の報告）

※（参考）過去の被害想定調査の調査期間 ※被害想定項目数：13

区分	対象断層	調査期間
地震	呉羽山	H22.5.31～H23.6.30（13ヶ月）
津波	呉羽山、糸魚川沖、能登半島沖	H23.5.31～H24.3.31（10ヶ月）
津波	呉羽山、糸魚川沖、富山湾西側	H28.3.8～H29.2.28（11ヶ月）
地震	砺波平野断層帯西部、森本・富樫、邑知潟	H28.12.28～H29.12.28（12ヶ月）

※ 石川県の地震被害想定調査（津波シミュレーション調査を除く）

- ・調査対象断層：県内・隣県に位置する陸海域の9断層帯（連動の考慮なし）
- ・調査期間：R5.8～R7.8（24ヶ月）

4 WGにおける調査の基本的姿勢

地震本部の「主要活断層帯の長期評価」、「日本海側の海域活断層の長期評価」、「震源断層を特定した地震の強震動予測手法（「レシピ」）」、「波源断層を特性化した津波の予測手法（津波レシピ）」を基本的枠組みとしながら、「想定外」の災害が生じることが無いように、主に次の項目について検討を重ね、シミュレーションを繰り返すなど作業を進めている。

- ① 基本的枠組みに関わらず、必要な場合には、富山県の実情に応じて、**県独自の断層モデル・パラメーターを設定**する。
- ② 本県が被る地震動が最大になるよう、**地震断層面上の強震動発生域の位置を変えて地震動の伝播のシミュレーションを繰り返し実施**。
- ③ 本県が被る津波が最大になるよう、**波源断層内のアスペリティ（大すべり域）の設定条件等を変更して繰り返しシミュレーションを実施**。
- ④ **能登半島地震の実際の被害データ**に基づく予測手法の妥当性の検討。